

2006年度（後期） 学生による授業評価アンケート調査
「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部		氏名	安永 愛
講義番号	1820B285		担当科目名	フランス文学概論
開講曜日	火曜日	9・10 時限	専門科目	
授業回数	28 回	休講回数	2 回	補講回数 0 回
受講登録者数	7 人	成績評価対象者数	7 人	授業放棄者数 0 人
成績評価に際し注意した事項				
<p>前期・後期それぞれ一本のレポートと出席状況を総合して判断した。</p>				
報告内容				
<p>アンケートの結果では、概ね満足率は高く、最も気になる項目であった「授業を受けて知識・技術が身に付いた」の満足度が高かったのは、初めて教える通年科目で、かなりの準備を必要としただけに、報われる思いである。</p> <p>小人数の授業であったが、フランス文学を中世から現代まで時代に沿って紹介する講義形式を中心として進めた。小人数であることを生かして、もう少し演習的な要素を取り入れても良かったのだが、フランス語を履修していない学生も受け入れていたので、フランス語そのものの読解にあてる時間はかなり限定的なものに留めた。評価項目の中で「授業の進度が適切である」が満足率50パーセントと低くなっているのは、近代以降のフランス文学の説明の際、文学作品の原文と訳文の抜粋を毎回配布しておきながら、原文に触れる時間が限られていたことと関わるのではないかと思う。また、「板書」についても満足率50パーセントと低くなっているが、これは、板書をあくまで補助として用い、体系的なものではなかったことも関わっているのではないかと思う。残念ながら自由記述欄に書いてくれた学生がいなかったため、これは推測でしかないのだが・・・。</p> <p>集計を見ると、総合評価と考えられる設問14（授業の満足度？）について、B以下をつけた学生はいないが、Aをつけた学生が一番多くなっており、A+評価はただ1名のみである。ということは、この講義については一応満足だが、何か足りないものがある、ということなのであろう。講義の内容自体にも、学生とのインタラクティブの取り方についても、改善の余地があるのは重々自覚している。この授業は、9・10限という時間帯に開講したが、個人的な都合で質問の時間を十分に設けられなかったのは大きな反省点である。「質問があれば受けます」とは何度も言っていたが、帰宅を急ぐ教員の素振りは伝わってしまっていたであろう。来年度は本科目の後半部のみを担当となるが、3・4限の開講なので、学生の質問を受ける余裕を持つことができると思う。今年度の教訓を生かし、さらに工夫を加えていきたい。</p>				